令和６年度　都城市立高城中学校　学校評価シート

○各評価者へのアンケートは以下の４段階評価で実施する
４：十分達成されている（75～100%）　３：概ね達成されている（50～74%）　２：あまり達成されていない（25～49%）　１：まったく達成されていない（０～24%）

【学校の教育目標】「自立　貢献」～夢に向かって最善を尽くし、社会に貢献できる自立した人間であれ～

大項目	項目	方策・手立て	具体的数値目標（アンケートの4、3の合計割合）	職員	生徒	保護者	小項目	大項目	考察・分析（○成果、●課題）	学校運営協議会委員より	最終評価
全般	1 学校ホームページや学校だより、学年・学級通信などを通して学校の様子がきちんと伝わっている。	○行事ごとのホームページの更新 ○月１回の学校だよりの発行 ○学級通信のカラー化 ○各学期１回の教育相談の充実 ○月１回のいじめ・不登校対策委員会の実施	90%	4 100%	4 93%	4 84%	4 92%	4 92%	○生徒の学校への満足度、職員への信頼度は高い。日頃から細やかな声かけを行なったり、相談に真摯に向き合っていることの成果ではないか。 ○毎月のいじめアンケートや定期の教育相談などで、生徒の微細な変化や悩みの早期発見に努め、学級担任を中心に組織的に対応している成果ではないか。 ○ホームページのアクセス数はは２年間で約70万増加し、130万を突破した。諸通信もカラー化し、情報発信をまめに行うことができた。 ●全体的に保護者の割合が低いのは、学校からの情報が十分伝わっていない面もあるのではないだろうか。 ●不登校傾向の生徒や、現在不登校の生徒に継続して働きかけていく必要がある。	○HPや学校だよりで情報発信がきめ細かくなされている。 ○授業参観でも先生と生徒の関係は良好で、何でも相談できる関係が構築されているように思われた。 ○全体的な満足度は高いが、保護者と職員の評価に差があることが気になる。 ○子どもたちの自主性を重んじている姿が分かる。 ○いじめアンケートや教育相談で生徒の小さな変化をとらえ、学校全体で問題解決に努めているように思う。 ○現２年生の評価が高い背景・要因を検証する必要があると思う。	4
	2 生徒は、学校生活に満足している。		90%	4 100%	4 90%	4 88%	4 93%				
	3 生徒には、高城中学校に信頼できる先生がいる。		80%	4 100%	4 89%	4 82%	4 90%				
すぐれた知性	4 生徒は、主体的に学ぶことができた。	○一人一授業による授業方法工夫改善 ○ICTの効果的な活用 ○校内研究を通して、わ・さ・びの視点での授業づくり ○諸検査・テストの分析 ○図書館サポーターの活用 ○全学級での朝読書の実施	80%	4 85%	4 83%	3 71%	4 80%	4 87%	○職員は「わ・さ・び」や「複線型授業」など、従来の授業方法のみにとらわれず、新しい知見を取り入れながら授業改善に努めている。 ○職員が「わさび」や「複線型授業」の授業実践に取り組んだことが、生徒の主体的な学習や協働的な学習、思考の深まりにつながっているのではないか。 ○図書の貸出冊数は、市内の他校と比較しても高水準である。週２日来校する図書館サポーターによる様々な仕掛けも図書室利用の増加につながっている。 ●本年度実践した授業について検証し、高城中学校ならではのスタイルを確立できるよう、校内研究を推進していく必要がある。 ●全体的に保護者の回答が低くなっている。学校での授業の様子が伝わっていなかったり。家での学習に学校での取組が十分生かされていないということかも知れない。	○先生方も研修等を通じて授業の在り方等を研究され、指導する中で生徒たちの主体性や協働的な学びを育んでいければよいのではないか。 ○生徒の教育は学校の授業だけでは限界があり、保護者の理解と協力が重要である。 ○先生方の日頃の努力や工夫の表れだといえる。保護者の評価が低めなのは、期待の表れであったり、保護者の多忙さが背景にあるのではないか。 ○参観授業等で子どもたちが楽しそうに積極的に学んでいる姿を感じた。 ○テスト結果のみで見ると十分に達成できているとは言えないが、学力の３つの要素から見ると十分に達成できているのではないか。	4
	5 生徒は、授業の内容が分かる。		80%	4 95%	4 85%	3 70%	4 83%				
	6 生徒は、協働的な学びを通して、自分の考えを深めたり広げたりできた。		80%	4 80%	4 85%	4 84%	4 83%				
	7 図書室平均貸出数20冊以上		80%	22.3冊（11月末現在）			4				
	8 「わ・さ・び」の授業実践		80%	4 95%			4 95%				
	9 「複線型授業」の授業実践		80%	4 95%			4 95%				
豊かな心	10 生徒は、周りの人に対する思いやりがもてた。	○道徳の時間の充実 ○命の教育と情報モラル教育を各学期１回、同時期に実施 ○SOSの出し方教育の実施 ○各学期１回の教育相談期間の設定 ○毎月の生活アンケートの実施 ○スクールカウンセラーなど、外部機関との連携	90%	4 90%	4 93%	4 94%	4 92%	4 93%	○全体的に高水準である。日頃の道徳の授業や各学期１回の命の教育と情報モラル教室、教育相談期間など様々な取組の効果が現れていると言える。 ○SOSの出し方教育やスクールカウンセラーの活用など、悩みを抱える生徒への組織的かつ迅速な対応が行われている成果も出ている。 ●SNSの利用マナーについて、職員は厳しく見ている。生徒指導上のトラブルがSNSを介したものが増加していることへの危機感の表れであろうか。	○地域での挨拶も笑顔でできているし、思いやりも感じられ、頼もしく感じる。 ○SNSの利用マナーは保護者と生徒の信頼関係であり、難しい問題である。SNSとの付き合い方、指導については課題が残る。 ○心のケアへの取組が評価につながっていると思う。 ○朝夕の見守り隊の時、子どもたちと接する機会が多く、心が落ち着いて見える。 ○メディアリテラシーについては、リスクを強調しつつ、多様性を尊重し、他者の立場に立った考え方をもつよう、大人も手本を示さなければならない。	4
	11 生徒は、自己肯定感を高め、命を大切にすることができた。		95%	4 100%	4 91%	4 97%	4 96%				
	12 先生や生徒は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。		90%	4 100%	4 94%	4 84%	4 93%				
	13 生徒は、SNS等には十分なマナーを心がけている。		80%	4 80%	4 99%	4 94%	4 91%				
たくましい体	14 給食残滓なし	○保健体育授業での補強運動 ○生活ノートによる家庭生活の見直し ○保健だよりでの家庭への啓発	70%	4 100%	4 93%		4 97%	4 94%	○2年生11月の残滓率は約1.6%(主食0.7%、牛乳1.8%、おかず2.5%)で非常に少ない。（全国平均6.9%）給食や食育の指導に加え、普段の食習慣も影響していると考える。 ○運動や部活動、校外スポーツ等に参加する生徒は80%をこえており、健康の維持増進につながっている。	○生徒達には文武両道の精神で勉強も大事だが、人間形成の上からもスポーツ等で体も鍛えてほしい。 ○感染症への対策意識も高い。「保健だより」は読みやすく、保護者にもよい情報源となっている。	4
	15 生徒は、運動や部活動・校外スポーツ等に積極的に取り組んでいる。		80%	4 100%	4 87%	4 85%	4 91%				
キャリア教育・ふるさと教育	16 生徒には、将来の夢や目標がある。	○キャリア教育の推進 ○総合的な学習の時間の充実 ○生徒会主体の地域貢献活動の実施 ○学校行事や教育活動への地域の方々の参画 ○まちづくり協議会、社会福祉協議会、自治公民館連絡協議会、学校運営協議会との連携	75%	4 85%	3 68%	3 67%	3 73%	4 80%	○夏休みの公民館清掃や観音池まつりへの出店、３学年の日和城清掃など、地域のボランティア活動に参加する生徒は増加している。 ○防災士の兒玉様による防災教室、社会福祉協議会による１年生の福祉の授業など、多くの地域の方々に本校の教育活動にご協力をいただいていることが結果として現れている。 ●将来の夢や希望の質問は、職員と生徒・保護者に大きな差がある。学校でのキャリア教育は計画的に実施されているが、家庭で話題になっていないのかも知れない。 ●地域行事への参加が低いが、部活動や習い事などと重なり、やむを得ず参加できないことが考えられる。また、地域行事が実施されることを知らず、参加機会を逃していることも考えられる。	○生徒会の清掃活動も生徒会の企画・運営で実践されたとのこと、生徒たちの自主性の成果が表れている。 ○地域行事に親子で参加する微笑ましい光景も見られ、感激した。 ○地域行事への生徒の参加も増え、地域での中学生の存在感（ボランティア力）が増していると感じる。 ○高城地区の伝統芸能の担い手不足が課題となっている、子どもたちが積極的に参加し、盛り上げてくれることを期待する。 ○自分の住む地区の夏祭りに今年初めて在住中学生のほとんどが参加し、さらに積極的に配膳や片付けを行う等する姿を見て安心感を覚えた。 ○観音池まつりへの生徒会の参加に対し、まちづくり委員が大変喜んでいた。来年度もぜひ参画してほしい。	4
	17 地域の方々と教育活動を行った。		80%	4 95%	4 86%	4 87%	4 89%				
	18 生徒は地域のボランティア活動に参加した。		80%	4 100%	4 75%	4 74%	4 83%				
	19 生徒は地域の行事に積極的に参加した。		70%	4 100%	3 62%	3 59%	4 74%				
働き方改革（職員のみ回答）	20 会議等が減少した	○会議の精選及び会議の短縮化・終了時刻の明確化 ○部活動外部指導者の配置 ○部活動休養日（リフレッシュデイ）の設定 ○C4th、google for educationを活用した、業務のデジタル化の推進 ○校務分掌組織の継続的改善 ○校内研究の推進	80%	4 100%			4 100%	4 98%	○会議の精選、校務のＤＸ化、組織マネジメントの効率化が着実に進められ、職員もそれを実感している。その結果として、月当たりの残業時間は昨年度と比較して、１時間以上減少している。 ○また、リフレッシュデーを確実に実施することで、生徒・職員の疲労軽減につながっている。 ●組織マネジメントの効率化を進めるために、校務分掌組織の継続的な見直しは必要である。 ●部活動外部指導者に関しては、未配置の部活動もあり、今後も継続して配置に向け人材の発掘・確保に努めていきたい。	○デジタル化が進み、保護者も生徒も職員もWIN－WINの状況がみられる。 ○働き方改革については、様々な取組の成果が見られるが、まだ取り組めることに余地があると思う。 ○充実した教育は、教職員の充実した気力や余裕を背景に成り立っていると思う。働き方改革が高い水準で進み、業務の効率化が実現していることは大変喜ばしい。 ○部活動の外部指導者については、募集方法を工夫するなど、引き続き人材の確保を図ってほしい。 ○先生方の負担を軽減することは、生徒はもとより地域との連携を深める上で大事である。そのような中、「複線型授業」などに取り組むことは新たな負担につながらないか危惧している。 ○部活動に限らず、地域の人材の活用を研究してほしい。	4
	21 校務のDX化の推進		80%	4 95%			4 95%				
	22 組織マネジメントの効率化		80%	4 100%			4 100%				
	23 残業時間が減少した			R5　38：38 R6　37：27			4				
	24 リフレッシュデーの遵守		80%	リフレッシュデイ実施率は100%（代替含む）			4				